

2020年6月14日(日)朝10:10～ 聖霊降臨節第3、子供の日等  
6月第2花の日共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題： **警えを聴いて悟れる者**(11、12)

聖書:マタイ 13章10～17節

<口語訳>

新約聖書20～ 頁

マタイ 13章10～17節

<新共同訳>

新約聖書23～24頁

マタイ 13章10～17節

<新改訳第3版>

新約聖書25～ 頁

マタイ 13章10～17節

<塚本訳>

新約聖書105～106頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト**様の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。

◇本日の**マタイ13:10～17節**は、「**警えを聴いて悟れる者(11、12)**」と、弟子たちに語って評価された箇所です。

⇒「**警え**」で語る理由を「**天国の奥義を知ることが許されているからだ**」(11)と、弟子たちに話されました。

⇒主は、弟子たちが、「**警えを聴いて悟れる者(11、12)**」と、宣言して下さったのです。

⇒「**警えを聴いて悟れる者(11、12)**」でないことを受けとめ、主の前に身を低くして、主のみにお頼りし、主の心を見つめている人が、「**警えを聴いて悟れる者(11、12)**」なのです。

⇒努力や工夫をして、悟りの境地を得た人ではなく、自分が無力無能の者であることを承認した人が、「**警えを聴いて悟れる者(11、12)**」です。

本論；

◇本日、**マタイ書13章10～17節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ13章10～17節**；**使徒マタイ**は、弟子たちを励ましておられます。

◇**13:10～17節**；**塚本訳**

◆**譬で語る理由**

「10 弟子たちが進み寄って、「あの人たちにはなぜ譬をもって話をされますか」とたずねると、

11 そこでイエスは答えられた、「あなた達(内輪の者)には、天の国の秘密をさとる力が授けられている(のでありのままに話す)が、あの(外の)人たちには授けられていないのだ。

12 だれでも持っている人は(さらに)与えられてあり余るが、持たぬ人は、持っているものまでも取り上げられるのである。

13 だから、あの人たちには譬をもって話すのである。『見ても見えず、聞いても聞えず、また悟らない』からだ。

14 こうしてイザヤの預言はあの人たちに成就した。——『あなた達は聞いても聞いても、決して悟るまい、見ても見ても、決してわかるまい。』

15 この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、その目は閉じてしまっているのだから。そうでないと、彼らは目で見、耳で聞き、心で悟り、心を入れかえて(わたし[神]に帰り)、わたしに直されるかも知れない。』

16 だが、あなた達の目は見、耳は聞くから幸いである。

17 アーメン、わたしは言う、多くの預言者と義人とは、あなた達が(いま)見ているものを見たい見たいと思ったが見られず、あなた達が(いま)聞いているものを聞きたい聞きたいと思ったが、聞かれなかったのである。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ13:10~17節**；「弟子たちが進み寄って、「あの人たちにはなぜ譬をもって話をされますか」とたずねると(10)」、「そこでイエスは答えられた、「あなた達(内輪の者)には、天の国の秘密をさとり力が授けられている(のでありのままに話す)が、あの(外の)人たちには授けられていないのだ。(11)」、「だれでも持っている人は(さらに)与えられてあり余るが、持たぬ人は、持っているものまでも取り上

げられるのである(12)」、「だから、あの人たちには譬をもって話すのである。『見ても見えず、聞いても聞えず、また悟らない』からだ(13)」、「こうしてイザヤの預言はあの人たちに成就した。——『あなた達は聞いても聞いても、決して悟るまい、見ても見ても、決してわかるまい(14)」、「この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、その目は閉じてしまっているのだから。そうでないと、彼らは目で見、耳で聞き、心で悟り、心を入れかえて(わたし[神]に帰り)、わたしに直されるかも知れない。』(15)」、「だが、あなた達の目は見、耳は聞くから幸いである(16)」、「アーメン、わたしは言う、多くの預言者と義人とは、あなた達が(いま)見ているものを見たい見たいと思ったが見られず、あなた達が(いま)聞いているものを聞きたい聞きたいと思ったが、聞かれなかったのである(17)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**譬えを聴いて悟れる者**(11、12)」が、「そこでイエスは答えられた、「あなた達(内輪の者)には、天の国の秘密をさとる力が授けられている(のでありのままに話す)が、あの(外の)人たちには授けられて

- いないのだ。」と、「弟子たち」に話されました。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「持っている人」が、いよいよ豊かになるとも、語られました。
- ⇒**ユダヤ人指導者**が、天国の奥義を理解していると自負していましたので、「持っているものまでも取り上げられる」と、「**譬え**」を使って語っているのだと語られたのです。
- ⇒『あなた達は聞いても聞いても、決して悟るまい、見ても見ても、決してわかるまい(14)』、「この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、その目は閉じてしまっているのだから。そうでないと、彼らは目で見、耳で聞き、心で悟り、心を入れかえて(わたし[神]に帰り)、わたしに直されるかも知れない。』(15)と、イザヤ書6:9～10節を引用して、預言の成就を宣言されました。
- ⇒実際の実現は、「**御子イエス・キリスト様**」の十字架の死です。
- ⇒イザヤの時代の人々が、「この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、その目は閉じてしまっているのだから。そうでないと、彼らは目で見、耳で聞き、心で悟り、心を入れかえて(わたし

[神]に帰り)、わたしに直されるかも知れない」だったように、今も、**神不信**が蔓延しています。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「あなた達の目は見、耳は聞くから幸いである(16)」、「多くの預言者と義人とは、あなた達が(いま)見ているものを見たい見たいと思ったが見られず、あなた達が(いま)聞いているものを聞きたい聞きたいと思ったが、聞かれなかったのである(17)」と、「あなた達の目は見、耳は聞くから幸いである(16)」と、驚くべき福音を聴いている、多くの預言者、父祖アブラハムさえ知ることを許されなかったことを知らされていると。

⇒「あなた達の目は見、耳は聞くから幸いである(16)」とは、「**御子イエス・キリスト様**」の心・思いを知ろうとしているからです。

⇒霊的感性を与えられていることは、幸いです。

⇒ピリピ:1章8～11節;【口語訳】

8 わたしがキリスト・イエスの熱愛をもって、どんなに深くあなたがた一同を思っていることか、それを証明して下さるかたは神である。

9 わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い

知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、

10 それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、

11 イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。

### 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
  - ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
  - ◇本日の**マタイ13:10～17節**は、「**譬えを聴いて悟れる者**(11、12)」と、弟子たちに語って評価された箇所です。
- ⇒「**譬え**」で語る理由を「天国の奥義を知ることが許されているからだ」(11)と、弟子たちに話されました。



⇒主は、弟子たちが、「**警えを聴いて悟れる者** (11、12)」と、宣言して下さったのです。

⇒「**警えを聴いて悟れる者**(11、12)」でないことを受けとめ、主の前に身を低くして、主のみにお頼りし、主の心を見つめている人が、「**警えを聴いて悟れる者**(11、12)」なのです。

⇒努力や工夫をして、悟りの境地を得た人ではなく、自分が無力無能の者であることを承認した人が、「**警えを聴いて悟れる者**(11、12)」です。

⇒ピリピ<sup>4</sup>:6;〈口語訳〉

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。